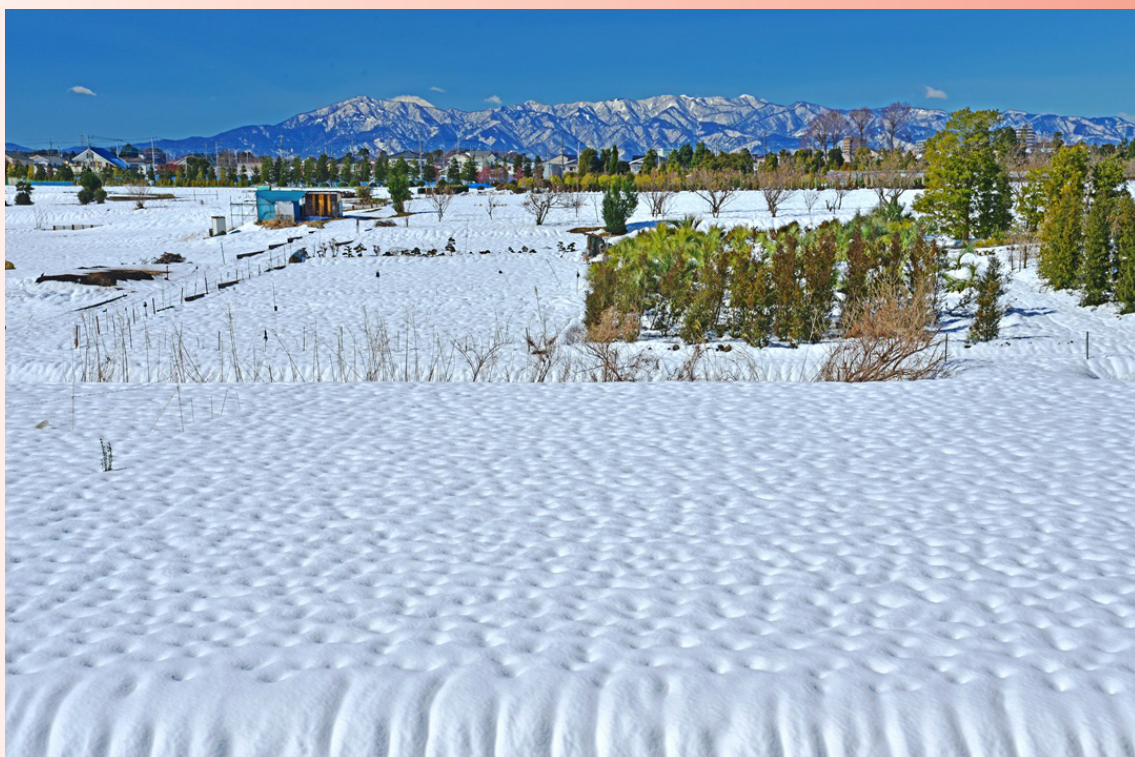


# パウダーコーティング

2025年 新年号

Vol.25 No.1



# パウダーコーティング

## 2025 年新年号

### 巻頭言

新年のご挨拶 .....	7
	長谷川智久
新年のご挨拶 .....	8
	高橋 正
新年のご挨拶 .....	9
	坂井 秀也
持続可能な社会の実現を目指す SDGs (11) .....	10
	奴間 伸茂
トピックス	
塗料工業分野における CSR ～中堅塗料会社の CSR への取り組み～ .....	12
	山本 晴一
＜組合便り他＞	
高機能素材 Week 2024 視察 .....	22
各団体新年の行事に参加して！ .....	26
後付 .....	32

### 編集委員会

編集委員長	柳田 建三 (旭サナック株)	
編集委員	壺岐 富士夫 (日鉄防食株)	妹脊 学 (久保孝ペイント株)
	桜井 智洋 (コーティングメディア)	
	八田 崇史 (日本ペイント・インダストリアルコーティングス株)	
	吉田 誠二 (日本パーカラライジング株)	
顧問	河合 宏紀 (カワイ EMI)	



## 掲載広告目次

株式会社ケット科学研究所	1
AGC 株式会社	2
久保孝ペイント株式会社	3
グラコ株式会社	3
株式会社小野運送店	4
日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社	4
ロックペイント株式会社	5
ナトコ株式会社	5
旭サナック株式会社	6
一般財団法人日本エルピーガス機器検査協会	6
株式会社三王	17
株式会社板通	18
横浜化成株式会社	18
株式会社明希	19
城南コーテック株式会社	19
株式会社アック	19
筒井工業株式会社	20
大日本塗料株式会社	20
パーカーエンジニアリング株式会社	21

**NEW** 膜厚計 L-500

測定、統計、プリントアウト。  
その場で完結。



N=	1	10.9	μm
N=	2	10.8	μm
N=	3	10.8	μm
N=	4	11.3	μm
N=	5	10.9	μm
N=	6	10.9	μm
N=	7	11.1	μm
N=	8	11.2	μm
N=			
N=			

BLOCK RESULT			
BLOCK	025		
Total	N	20	
Avg.		49.0	μm
S.D.		0.3	μm
Max.		49.6	μm
Min.		48.4	μm

■ 印字例

測定結果や統計計算結果を即時に印刷できます。



■ 測定例

手持ちでも平置きでも測定しやすい形状です。

- 高精度・多機能なプリンタ搭載器
- 検量線メモリと調整データ搭載の新型プローブ
- 調整方法などを対話形式で表示する大型ディスプレイ搭載
- 統計計算機能内蔵（ブロック統計・グループ統計／測定回数・平均値・標準偏差・最大値・最小値）
- 上下限アラーム、連続／ホールド測定ほか、多くの機能を搭載

スペック詳細や使い方動画などは、コチラ



**株式会社ケット科学研究所**

東京本社 〒143-8507 東京都大田区南馬込1-8-1

西日本支店／北海道営業所／東北営業所／東海営業所／九州営業所

URL: <https://www.kett.co.jp/> E-mail: [sales@kett.co.jp](mailto:sales@kett.co.jp)



**AGC**

**ECO**

ここからはじまるECO  
塗料用フッ素樹脂粉体  
実績と信頼



**AGC化学品カンパニー**  
**AGC株式会社**

100-8405 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング Tel 03-3218-5040 Fax 03-3218-7843 URL <http://www.lumiflon.com>



SINCE 1967

KING of Powder

NISSIN  
Powder

国産初の  
静電塗装用粉体塗料。  
各種産業分野でいち早く  
環境保護、省資源化に貢献。

# ニッシン パウダー 粉体塗料カラーカードシステム

粉体色見本帳による  
受注システム



豊富な塗色を常備在庫

ニッシン パウダー

(ソリッド色) 182色

ニッシン パウダーコートS

(特殊模様塗料) 20色

合計 202色

1カートン (15kg) よりオーダー OK

コンパクトで使いやすく、  
模様見本を含め全色掲載

久保寿ペイント株式会社

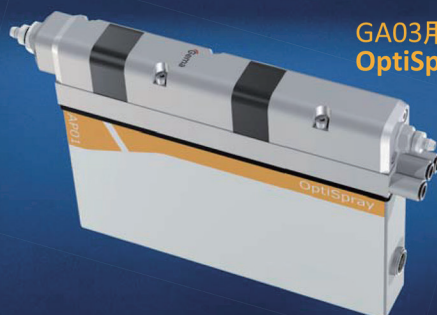
本社・工場：〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路3丁目15番27号 TEL (06) 6815-3111 FAX (06) 6323-5881  
関東営業所 TEL (048) 660-1200 FAX (048) 660-1202 九州営業所 TEL (092) 411-7011 FAX (092) 411-7041  
名古屋営業所 TEL (052) 261-1125 FAX (052) 261-1135 <http://www.kuboko.co.jp>



自動ガン OptiGun GA03



これまでに類のない驚異的な塗装性能  
塗料の大幅削減を約束  
際立った定量供給を実現  
安定した塗装品質を提供  
内面自動塗装の世界を変える



GA03用ポンプ  
OptiSpray AP01

Gema



<http://www.gemapowdercoating.com>



グラコ 株式会社  
ゲマ事業部

〒224-0025 横浜市中区早瀬1-27-12  
TEL: 045-593-7335 / FAX: 045-593-7336



## 塗料の運搬を始めて 110余年 !

創業明治二十九年

## 危険物運搬、塗料系の 廃棄物収集運搬はお任せ下さい

TEL・FAXにて 当社の産業廃棄物依頼表をご請求下さい  
すぐにお送りいたします。

小缶からドラム缶  
粉体フレコンバッグも処理します  
廃材、ビニールシート廃ローラー、ウェスなどの産廃物も収集いたします  
電着槽 塗装ブースの清掃も承ります



## 収集運搬費・処理費用は別途ご相談に応じます

お客様の気持ちを運ぶ

東京都塗装工業協同組合、東京都塗料商業協同組合  
埼玉県塗料商業会、日本塗料商業組合神奈川県支部  
神奈川県工業塗装協同組合 埼玉県工業塗装協同組合

## 指定業者

東京都 品川区南品川4丁目2番33号  
まずは ご連絡下さい <http://www.ono-unso.co.jp/>  
営業担当 里吉まで

TEL 03-3474-2081  
FAX 03-3474-2838



株式会社小野運送店



エコかんまくん



① 1Kg からオーダーメイドできる粉体塗料

耐候性向上タイプ新発売！

超小口短納期調色粉体塗料

アルファ

ビリュージア アルティカラー<sup>®</sup> α

### PERFORMANCE



経済的！

1Kg から発注OK！



早い！

オーダー色を短納期で  
お届け致します  
(当社通常粉体塗料よりも短納期でお届けいたします)



カラフル！

粉体塗料を混合し  
お好みの色に調色できます

### QUALITY



キレイ！

超微粒子により塗膜外観に優れ、  
美しい仕上がり肌が得られます



エコ！

無溶剤で環境に優しい粉体塗料  
RoHS 指令対応



つよい！

耐候性に優れています  
(ビリュージア アルティカラー<sup>®</sup> α 対比)



日本ペイント・インダストリアルコーティングス株式会社

〒140-8675 東京都品川区南品川4-1-15 TEL 03-3740-1130



工業用塗料

<http://nipponpaint-industrial.com/>

# 47077®

## 超美粧性粉体塗料

第3世代  
HAA  
粉体塗料

つや消し性と  
高平滑性の両立

▶推奨用途

デスク

ロッカー

配電盤

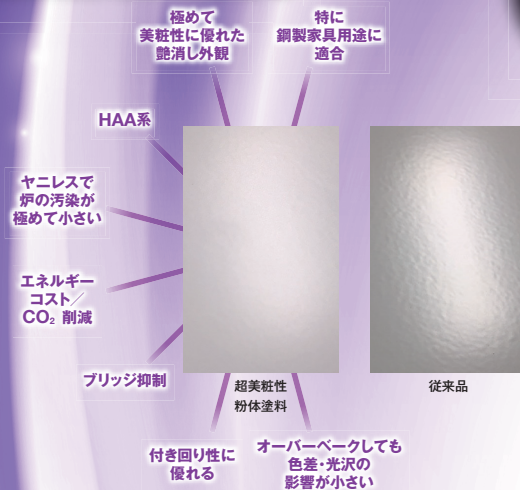
発電機

間仕切り

什器

照明機器

など



ロックペイント 株式会社

詳しい使用方法等については、最寄りの営業所へお問い合わせください。

東京営業部 / 〒136-0076 / 東京都江東区南砂2丁目37番2号  
TEL (03)3640-6000 FAX (03)3640-9000  
大阪営業部 / 〒555-0033 / 大阪市西淀川区堀島3丁目1番47号  
TEL (06)6473-1650 FAX (06)6473-1000

ロックペイントのホームページ <http://www.rockpaint.co.jp>

エコな粉、ええコナ

粉体塗料

# エコナ®

1ケースからの少量・短納期を実現  
特長ある品種

- 薄膜・高平滑タイプ
- 低温硬化タイプ
- ヤニ臭改善型 (PRTR 法対応)
- 高耐候性タイプ
- 艶消しタイプ
- ファインレザータイプ、  
レザーサテンタイプ
- エッジカバータイプ



ユニークな発想で新しい価値を創造する◎

ナットコ株式会社

〒470-0213 愛知県みよし市打越町生賀山18

営業管理 TEL 0561-32-9651 FAX 0561-32-9652

支店 中部(愛知)・東部(埼玉)・西部(大阪)・西南部(福岡)



デュアル電界方式静電粉体ハンドガンユニット

# Eco Dual

AXR II-100DF・AXR II-100ST・AXR II-100FB  
AXR II-200DF・AXR II-100ST・AXR II-100FB

新荷電方式＝デュアル電界方式  
高い塗着効率と美粧仕上がりを両立

## 塗料使用量削減

塗料への帯電効率が高く、塗料使用量の削減、補正量の減少、産廃量の削減も期待できます。

## 仕上がり性向上

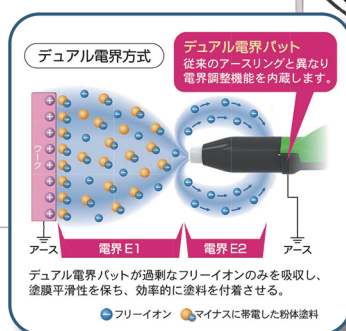
高い帯電効率を保ちながらフリーイオンの発生を抑え、平滑な仕上がり面が得られます。

## 作業時間の短縮

最大吐出量が約350g/minとなり、短時間でより多くの塗料を付着させることができ、作業効率が向上します。

## 塗料飛散抑制

新設計のインジェクタにより、従来よりも少ないエアで塗料を供給でき、吹き飛ばし等塗料の飛散を抑制します。



ECDm

豊富な  
ノズルバリエーション  
最適な条件で  
使用可能！

ユニットバリエーション  
で用途に合わせて選択できます

- ・部分流動タイプ
- ・攪拌ホッパタイプ
- ・流動タイプ

塗装FAシステム・機器の総合メーカー  
**旭サナック株式会社**

本社・工場 愛知県尾張旭市旭前町5050番地  
TEL (0561) 53-1213(代) 〒488-8688



旭サナック HP



該当機種: EcoDual



ISO 9001 認証  
JQA-2095



ISO 14001 認証  
JQA-EM2121

〔財〕日本品質保証機構 〔財〕日本品質保証機構



「Eco Dual」および「Ec' Coater」は旭サナック株式会社の登録商標です。

## SDGsやBCPへの対応もISO認証で

LIA-AC は、公平・公正・迅速・丁寧・

親切な審査を心がけています。

プライバシーマークは、個人情報の

保護や運用の状況が適切である

事業者の証です。



指定機関(29)

一般財団法人日本エルピーガス機器検査協会  
**ISO 審査センター (LIA-AC)**

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-6 共栄火災ビル 7F  
TEL 03-3580-3421 (直通) / 03-5512-7921 (代表)  
<https://www.lia.or.jp/lia-ac/>

プライバシーマークの審査についてもご相談ください。





## 新年のご挨拶

日本パウダーコーティング協同組合  
理事長 長谷川 智久

新年あけましておめでとうございます。  
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
2025 年が皆様にとりまして良き年となりますよう  
心より祈念申し上げます。  
平素は、当組合の活動にご理解をいただき、格別  
のご高配を賜り感謝申し上げます。

さて、2020 年 2 月頃より世界的に流行した新型  
コロナウイルス感染症は、すでに過去のものとな  
った感がありますが、感染症によるパンデミック  
が現代社会の大きな弱点であり、我々も忘れる  
ことなく危機管理のひとつとして継続した感  
染症対策が必要であることを再認識させられ  
ました。皆様におかれましても社内の危機管  
理項目に加え、安定操業の確保に努めていた  
だきたいと存じます。

世界情勢は複雑さを増し、2022 年 2 月 24  
日に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、  
現在も交戦中で先行きが見えない状況にあり、  
天然ガス、原油、穀類をはじめ多くの商品に  
対する影響が継続し、世界経済の不安定な状  
態が継続しています。

一方、ハマスの奇襲から始まったイスラエル  
との戦争は、歴史的な背景も複雑でこちらも  
出口が見えない状況で、戦争の拡大や長期化  
は多くの犠牲者を出すだけでなく、原油価格  
の高騰の恐れがあり世界経済に打撃を与えま  
す。人道的にも経済の安定のためにも、早期  
停戦の合意と平和へ向けた動きをしてもら  
いたいところです。

また、アメリカ次期大統領がトランプ氏に  
決まり、アメリカ・ファーストに舞い戻った  
ことも、先行きの不透明感を一層増すことが  
予測されており、米中の対立の深刻化や世  
界の二極化など多くの懸念事項が報道されて  
います。

このような状況下ではありますが、IMF の世界経済

の成長率は、2024 年 4 月の「世界経済見通し  
（WEO）」における予測に沿う形で、2024  
年は 3.2%、2025 年は 3.3% になると見  
込まれていて、昨年の 2024 年の 2.9% の  
見込みに比べ 0.3% 上振れと見込まれていま  
すので、少しは期待できるのでしょうか。

国内情勢においては、世界に後れを取って  
いるとされる日本のカーボンプライシングで  
すが、2026 年から排出量取引制度が本格的  
に始動し、2028 年には炭素に対する賦課金  
（化石燃料賦課金）が導入されます。温室効  
果ガスの発生を各企業は抑制し、カーボン  
ニュートラルの達成を目標とせざるを得ない  
状況で、川下企業からの要求は年々強くな  
ると考えられます。

当協同組合としてもパウダーコーティング  
誌の記事や粉体塗装研究会等で、今後関連  
テーマをより多く取り上げてタイムリーに  
情報提供できるよう努力して参る所存です。  
皆様ご指導ご協力賜りますようよろしく  
お願いいたします。あわせて、一般社団法人  
日本塗料工業会様、一般社団法人国際工業  
塗装高度化推進会議様、日本工業塗装協  
同組合連合会様、日本塗料商業組合様等  
関連団体様との連携強化により、顧客や  
関係各省への粉体塗装の PR を進めてゆ  
きたいと考えています。

昨年も申し上げましたが、環境に優しい  
塗料・塗装方法である粉体塗装の拡大を進  
めて参る所存です。塗料メーカー各社様  
も HAA（ヒドロキシアリルアミド）硬化  
型に加え新硬化系で低温化を達成されて  
おり、VOC を含まない環境に優しい塗料  
として、市場より注目を集め、粉体化が  
進むものと期待しております。

最後になりましたが皆様のご健康、ご  
発展とご多幸を心より祈念申し上げ  
新年のご挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

日本工業塗装協同組合連合会

会長 高橋 正

令和7年新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

平素は日本工塗連の事業運営にあたり、関係省庁並びに関係団体の皆様をはじめ関係各位の格別のご支援ご厚情を賜わり厚く御礼申し上げます。

昨年、我が国においては、正月の能登半島地震、地球温暖化の影響とされる酷暑、また、今まで経験したことのないような豪雨など多くの災害が発生しました。一方、経済においては、国際情勢の緊迫化、円安進行と原料不足などによる燃料エネルギー、材料価格の急騰、加えて、少子高齢化などの社会的な背景による人材不足や人件費高騰などが、多くの企業の経営を圧迫しました。

同様に、中小企業の集まりである私たち工業塗装業界も、燃料エネルギー高、材料高の影響をまろに受け、価格転嫁も追いつけず、賃上げや設備投資の原資の確保も難しいという厳しい状況に陥りました。そうした中でも、日本工塗連の各組合会社は、知恵を出し合い、絶えまぬ努力を重ねながら、経営の存続と従業員の雇用維持を図って参りました。しかしながら、全体の仕事量が減少していく中、取引先等でも廃業する会社も多く、各組合会社でも、資金不足、人材不足により、廃業を余儀なくされる会社もありました。

本年においては、米国の大統領選挙で共和党トランプ前大統領が勝利を収めたことにより、自国第一主義の政策が進められるものと思われます。すでに大手企業は生産拠点を関税影響の少ない国へシフトする動きが見られます。各組合会社には、そのような変化をしっかり掴み、我が国へ生産拠点を移す優位性を示し、受注量拡大につなげて頂くことを期待しております。更

に、制度、政策が大きく動くことも予想されていますので、しっかり準備し、変化に対応して頂きたいと考えます。

特に、各組合会社の経営者の皆様におかれましては、今こそ、それぞれ五感を研ぎ澄まし、長期的な展望を描き、自社をどのような方向に進めるか、企業トップの指導力が試される時であり、ネットで情報を集めるのではなく、自らの足で多くの情報を集め、変化や匂いを感じとることが重要になる変化の時代になったことを意識しつつ事業を推進して頂きたいと考えます。

一方、昨年、日本工塗連では、人材確保、後継者の育成、更には組合員増強による工業塗装業界の連帯を目的に、「工業塗装ともの会」座談会を2ヶ月に1回、開催しました。座談会では、職場環境、価格転嫁、外国人労働者、SDGsなどその時々的重要な課題が議論され、開催が20回目を数えるに至りました。また、総会及び全国大会は神奈川県横浜市で開催され、ご来賓、招待の皆様など総勢123名のご出席をいただき、華やかに開催することができました。更に、将来を担う若手後継者の集まりであるジュニア会も東京で開催され、意見交換会や懇親会を通してお互いの連帯を強めることができました。

最後に、本年も引き続き、各地区では、若手の塗装技術者の技能向上を目的とした塗装技能コンクールや工場見学会、勉強会など組合員の役に立つ多くの事業に取組む所存でございますので、関係官庁及び関係団体の皆様からのご支援をお願いするとともに、関係各位のますますのご隆盛をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のご挨拶

一般社団法人 国際工業塗装高度化推進会議  
理事長 坂井 秀也

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、2025 年の新春をお健やかに迎えになられたこと、心よりお喜び申し上げます。

今世紀は環境の世紀といわれているように、まさしく世界中で環境影響が日常化しています。SDGs 活動も、それぞれの立場で「持続可能な開発目標」の実現化に立ち向かっていますが、各国の事情により足並みが揃わず難航しております。地球温暖化現象による気候変動や海面温度上昇も、すでに大きな社会問題となり、私たちの生活もこの異変に直面しております。それに各地域での紛争や不調和が加わり、経済活動への打撃も不安視されております。パンデミックスによる行動変化は、リモートとサプライチェーンを産み、ビジネスの大きな変革が起こり、地産地消として市場に近い現地の製造をサポートする実践的なイノベーションが生まれています。そして、「リショアリンク（生産拠点の国内回帰）」や「オンショアリング（自国内でのアウトソーシング）」など、LCA を基本とする流通や生産にメスが入り、それぞれの分野で見直しが行われています。

一方、25 年後のライフ予測として、期待される科学技術のさらなる進展がプランニングされていて、今後持続可能な開発目標の実現には、次世代に活躍する若者に委ねられております。健康寿命のための医学アプローチ、再生化する緑化と循環型エネルギー転換活用、情報の共有化やセンサーやロボットによる生活支援などの実現化には、複合技術や業際技術が必要不可欠な存在です。現在も、各分野において競合他社が融合して研究開発が進められており、新たな科学技術による共有化と特異化が期待されております。

世界コーティング協議会（World Coatings Council: WCC）では、サステナビリティレポートにて SDGs テーマを特定しており、日本の塗料・塗装業界におけるこれらの動きも、工業塗装の主軸と言える自動車の CN に向けた取り組みが行われており、これらの事業

成果が現場で採用されることが望まれています。

IPCO では、「工業塗装の現場改善」をメインテーマとして、直面しております環境課題、塗装技術の革新、業界ネットワーク推進などのサポートエンジニアリングを進めており、IPCOSTUDY や合同会議にて実績評価を協議しております。

とくに、受託加工がメインの工業塗装においては、被塗物の素材、製品、工程などが予期せぬ変化が起これば、現有ラインの収益に大きく影響する恐れもありますので、受け入れ態勢の再構築が求められております。

昨年からスタートしました高度ポリテクセンターでの「塗装設計者のための工業塗装技術」は、各分野からの参加をいただき、発注者側の課題抽出に大きな成果が得られました。このような取り組みは、塗料・塗装業界のニーズを把握する絶好の機会であり、塗装現場へのフィードバック情報として活用して参ります。

また、IPCO は、コーティング・コンソーシアム（Coating Consortium: CoCo）の発足時から参画しており、現在は日本塗料工業会（JPCA）様とともに「工業塗装における脱炭素へのチェックリスト」の作成を担当しており、日本工業塗装協同組合連合会様と日本塗装機械工業会（SEMA）様作成の「工業塗装ライン工程別の CO<sub>2</sub> 排出削減対策例」も進んでおります。完成後は、まずは自社分析をしていただくためのツールとしてお使いいただければ幸いです。CoCo は、このように塗料・塗装団体の繋がりを実践していて、炭素集約型産業としての次世代提案に取り組んでおります。

国連の気候変動会議において、2025 年には、CO<sub>2</sub> の排出削減から脱炭素の段階的廃止へと流れが変わる兆候が見られており、塗料・塗装業界でも先見の動きが求められています。最後に、この一年も皆様のご健康とご事業のご繁栄を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

## (11) 中堅塗料会社の CSR への取り組み

奴間 伸茂<sup>\*1</sup>

### 1. はじめに

2021 年夏季号から、「持続可能な社会の実現を目指す SDGs」というテーマで、以下のように執筆してきた。

2021 年夏季号；

「(1) まずは SDGs を知り尽くそう《SDGs 保存版》」

2021 年秋季号；

「(2) ビジネスを持続可能にする SDGs を！」

2022 年新年号；

「(3) 塗料・塗装産業分野における取組とは」

2022 年春季号；

「(4) 線形経済から循環経済へ～限りある資源の効率的な利用を～」

2022 年夏季号；

「(5) さあ、始めよう SDGs ！」

2022 年秋季号；

「(6) まだまだ、これから SDGs ！」

2023 年新年号；

「(7) 原材料メーカーの取組みに学ぼう！」

2023 年夏季号；

「(8) 粘り強く CO<sub>2</sub>、VOC の削減を！」

《参考》チャット GPT 注意しつつ有効活用を！」

2023 年秋季号

「(9) すごいぞ！身近な仲間の SDGs の取り組み」

2024 年夏季号

「(10) 感動！「自動車塗装 CN 研究会」の取り組み」

熱心な読者から、新聞、雑誌、インターネット上に CSR や SDGs それに ESG といった環境がらみの略号が溢れているが分かり易く整理して欲しいという声が届いた。

CSR について、経産省のホームページには以下のように記述されている。

《CSR (Corporate Social Responsibility : 「企業の社会的責任」とは、企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業行動であり、企業を取り巻く様々なステークホルダーからの信頼を得るための企業のあり方を指します。

[https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei\\_innovation/kigyoukaikai/index.html](https://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/kigyoukaikai/index.html)》

CSR は日本独自のものではなく、国際標準化機構 (ISO) は 2010 年に正式なガイドラインとして国際規格 ISO26000 を発行している (組織の社会的責任に関する規格。認証規格ではないガイダンス規格である)。

一方、最近新聞紙上で良くお目にかかる ESG は、

環境 (Environment) ・ 社会 (Social) ・ ガバナンス (Governance) の英語の頭文字を合わせた言葉である。

ESG と SDGs は、どちらも環境などへの取り組みという観点から類似したものと捉えられることもあるが、既に 2021 年夏季号で述べたように SDGs が国連にて採択され、国が積極的に進める行動指標・目標であるのに対し、ESG は、企業が取り組むべき課題や経営方針の基準であり、投資家が投資先の企業を選定する際の判断基準でもある。

### 2. CSR を具体的に学ぼう！

CSR、SDGs、ESG について具体的に研究したい皆さんに是非お勧めしたいのが武蔵塗料ホールディングス株式会社発行の“Musashi Paint Report 2024”である。

[https://musashipaint.com/img/MusashiPaintReport\\_2024\\_JP.pdf](https://musashipaint.com/img/MusashiPaintReport_2024_JP.pdf)

このレポートの制作責任者である同社の CSR 推進室 室長 山本晴一さんに、“塗料工業分野における CSR ～中堅塗料会社の CSR への取り組み～”と題して本号に投稿していただいた。

“Musashi Paint Report 2024” (以下、本 Report と省略) とあわせて読んでいただけると、CSR、SDGs、ESG について具体的に理解していただけると思う。

### 3. “Musashi Paint Report 2024”

本 Report の一部を紹介する。

全体は 3 つの Chapter から構成されている。

Chapter 1 経営とサステナビリティ は 4 つの項目に分かれている。

- 1) まず代表取締役社長 福井裕美子さんの「トップコミットメント」である。同社の Corporate Purpose 「色と機能で世界を豊かに」の解説から始まり「サステナブル経営は、自分を好きになることから始まる。」と熱い思いを笑顔で、“ご自分の言葉”で語っていらっしゃる。
- 2) 次に同社グループの歴史と強み、世界 11 か国にわたるグローバルネットワークの説明へと続く。
- 3) 注目していただきたいのは、「経営理念と CSR」である。経営者の思いを込めた企業活動の基盤となる方針である「経営理念」、経営上の方針を示した「社是」、全ての従業員が守るべき理念や心構えを示した 7 項目の「社訓」と 49 項目の考え方は冊子「musashi color」にまとめられ全従業員に配布されている。すべての海外拠点は現地語化され朝礼時の復唱などに活用されている。各拠点から担当者が

<sup>\*1</sup> 塗料塗装技術研究所 代表



参加する経営理念浸透プロジェクト「NIJI project」は家族も参加できる楽しい試みである。

上記の「社是」「社訓」「パーパス」は大切にされている考え方だが、概念的な要素が強い。そこでこれらを実践的なサステナブル経営に結び付けるためにこれらの既存文書を具現化した CSR 活動の導入に至った。策定された CSR 方針は前文と具体的な 7 項目からなる。

同社の CSR 活動は「社会にポジティブインパクトをもたらせる（攻めの CSR）活動」と「社会にネガティブインパクトを発生させない（守りの CSR）活動」の 2 つに大きく分けられる。

社会からの課題を具現化したものと言われている SDGs のうち社会にポジティブインパクトをもたらせる（攻めの CSR）活動として以下の 3 つの活動項目を掲げて取り組んでいる。

- ・環境重視の商品創出
- ・社会とのコミュニティによる価値創造
- ・従業員のウェルビーイングの追求

一方、社会にネガティブインパクトを発生させない（守りの CSR）活動として以下の 7 つの活動項目を選定し取り組んでいる。

- ・人権への取り組み
- ・労働安全衛生への取り組み
- ・環境保全への取り組み
- ・品質 / 安全への取り組み
- ・コンプライアンスへの取り組み
- ・情報セキュリティへの取り組み
- ・リスクマネジメントへの取り組み

以上の CSR 活動 10 項目と主に担当する部門およびステークホルダーとの関係を明確にしている。

同社グループは 10 項目の具体的内容を記載した「Musashi Sustainability Guide」を発行し CSR 啓発教育に力を入れている。

#### 4) ～ CSR のその先に～サステナブルな価値創造を目指す

「重要課題➡ビジネス基盤➡output ➡価値創造」を明確にした「価値創造モデル」を全従業員が理解した上で日々の業務に取り組むことが重要と考えている。

SDGs のゴール達成にも貢献するものである。

### Chapter 2 攻めの CSR 活動～社会の期待に応える～は 3 つの項目に分かれている。

- 1) 環境重視の商品創出では、「バイオペイント」、「型内塗料」、「メッキ塗装システム インジウム塗料」、「UV 塗料 水系塗料」について分かり易く紹介されている。
- 2) 社会とのコミュニティによる価値創造 未来社会の産業構造に変革をもたらせる製品では、「MATSURI への参画～微細藻類由来のバイオペイントの開発～」、「株式会社 TBM ～環境配慮製品の

共創～」、「自社製品を用いて地域を活性化（日本）」、「バス停の塗装による地域環境整備（韓国）」、「障がい者のための新たな雇用機会の創出（中国・天津）」、「社内フリーマーケットの開催（日本、韓国）」、「子供たちと共に（ベトナム・ハノイ、ホーチミン）」などの取り組みを紹介している。

さらに、世界各拠点での「寄付活動・地域清掃活動・献血」、「他社の救援活動サポート（中国・蘇州）」などを紹介している。

- 3) 従業員のウェルビーイングの追求では「働きがいのある労務管理を構築する」をめざして、「Continuous Service Award（グループ永年勤続表彰）」、「5S Activity Award」、「Musashi Global Awards」、「フレックス勤務と在宅勤務の併用（導入試験段階）」、「時間単位休暇制度の導入」、「育児短時間勤務制度の範囲拡大」などの取り組みを紹介している。

### Chapter 3 守りの CSR 活動～企業としての責任～

以下の 7 項目にわたってゴールと取り組みについて明確に述べている。3) について詳しく紹介する。

- 1) 人権への取り組み
- 2) 労働安全衛生への取り組み
- 3) 環境保全への取り組み  
目指すゴールは、  
① 2050 年までに Scope1 と Scope2 のカーボンニュートラルを達成する  
② 2030 年までにゼロエミッションを達成する  
これを実現するために、同社グループの企業活動による CO<sub>2</sub> 排出量の把握から取り組みを始めている。  
・まずは日本拠点の Scope1、Scope2、Scope3 について算出の根拠を明確にして CO<sub>2</sub> 排出量を求めた。  
・国内外各生産拠点の電力使用量と CO<sub>2</sub> 排出量の実態把握（2022 年）を実施  
・CO<sub>2</sub> 排出量削減への取り組みの実施  
・CO<sub>2</sub> 排出量削減に向けた具体的な活動事例の紹介
- 4) 品質・安全（化学物質管理）への取り組み
- 5) コンプライアンスへの取り組み
- 6) リスクマネジメントへの取り組み
- 7) 情報セキュリティへの取り組み

最後に、経営目標と CSR・SDGs の関係を簡潔にまとめている。

以上、皆さんにはぜひ実際に本 Report を読んでいただき、CSR と SDGs の関係を明確にしていきたい。

また、Scope1、Scope2、Scope3 をきちんと算出し、2030 年までにゼロエミッションを達成することを目指している企業姿勢は ESG の観点からも評価できる。是非参考にしていきたい。



## 塗料工業分野における CSR ～中堅塗料会社の CSR への取り組み～

山本 晴一\*

### 1. 弊社について

武蔵塗料（以下弊社と略）は、1958（昭和 33）年に創業した塗料の製造と販売を手掛ける会社です。現在はプラスチック用コーティング材が事業の基幹であり、自動車、家電、ゲーム機など幅広い分野に参入しています。また、世界に 13 の製造拠点を有し、多くのグローバルトップ企業様ともお取引をいただいています。

弊社は 2023 年 1 月に CSR 推進室を設立し、CSR への取り組みをスタートしました。ただし、それまで何も取り組んでいなかったというわけではなく、品質、環境、労働安全衛生など個別の取り組みは行っていましたが、経営環境の多様な変化を鑑み、CSR に基軸を移しました。

### 2. CSR とステークホルダー

そもそも CSR とは何でしょうか？ CSR は Corporate Social Responsibility の略で、直訳すると「企業の社会的責任」となり、企業が社会や環境に対して責任を果たす考えです。一方、Responsibility を Response（応える）と Ability（能力）に分解して、「企業が社会の要求に応える力」と唱える専門家もおられます。

ではここで指す社会とは何かということになります。が、企業は単独では存在することはできず、多くの利害関係者とながりの上で存在しています。これらの利害関係者のことをステークホルダーと称しています。自社とステークホルダーの関係は表 1 にまとめていますのでご参照ください。ステークホルダーの中でも以前は株主重視でありましたが、最近ではすべてのステークホルダーとの関係を重視し、企業活動を通じ

表 1 ステークホルダーと自社の関係

ステークホルダー	ステークホルダー→自社	自社→ステークホルダー
顧客	製品対価の支払い 顧客は会社の売上・利益に直結するステークホルダーです 品質・納期・コストの対応は言うに及ばず、顧客とともにその先の消費者を意識した共通価値の創造をめざすことでより関係を深めます	約束に沿った製品の納入
仕入先・協力会社	原材料・受託依頼品の納入 仕入先や協力会社の協力なくして顧客への製品納入はできません 協力をいただくためには公正な取引の継続が重要です	納品対価の支払い
行政	事業関連の許認可 企業が事業活動を行う上では、行政機関より許認可が必要です 許認可を取得・維持するために関係する法規制の順守が必要です	法令の順守、納税
業界団体	情報提供、指導的機関との折衝窓口 個社では規模が小さいため難しい対応でも、業界で協力し合うことで達成が可能となる場合があります	業界ルールの順守、調査協力業界活動への参加
従業員	労力の提供 従業員は最も重視すべきステークホルダーです 従業員のモチベーション向上が事業の活性化につながります 企業は従業員が働きやすい環境を提供し続けることが重要です	賃金の支払い・雇用
非営利組織（NPO など）	活動支援要請 非営利組織は行政機関や地域とのパイプが太いことから、企業としてこのパイプを活用して win-win の関係を構築していくことが大切です	資金・活動場所の提供
地域住民	社会貢献、環境保全の要求 地域住民に迷惑をかける行為を行えば、その地域での事業継続は難しくなります 逆に地域から好まれる事業活動を行うことで求人活動を円滑にし、人財の確保につながります	利益還元、雇用創出、環境保全
株主・投資家・金融機関	資金提供 適切な判断のため、自社の正確な情報開示が関係の基本となります	利益還元

\* 武蔵塗料ホールディングス株式会社 CSR 推進室 室長

でステークホルダーへの貢献をめざす考えにシフトしています。企業が今後も社会の一員であり続けるためには、様々なステークホルダーの声に耳を傾け、ステークホルダーの期待に応える企業活動に取り組んでいく必要があるのです。この取り組みこそがCSRです。

### 3. 企業におけるCSRの位置づけ

多くの企業では、「経営理念」が設定されています。また企業によって「社是」、「社訓」、「パーパス」なども設定されている場合があると思います。しかしながら、これらに記載された言語は概念的であり、具体的に何を行えばよいかは明確でないことが多いです。

これを具現化したものがCSRであり、図1のようにCSRに取り組むことでサステナブル経営<sup>脚注1)</sup>につながるものと考えています。

### 4. CSRの2つの側面と企業価値

一般的な考えかどうかは別として、弊社では図2に示す“CSRを二つの側面”から捉えています。先ほど

「企業が今後も社会の一員であり続ける」、「サステナブル経営につなげる」ためにCSRに取り組むと記載しましたが、これらは結果論であり直接の目的は“自社の企業価値の維持・向上”であります。



図2 CSRの2つの側面

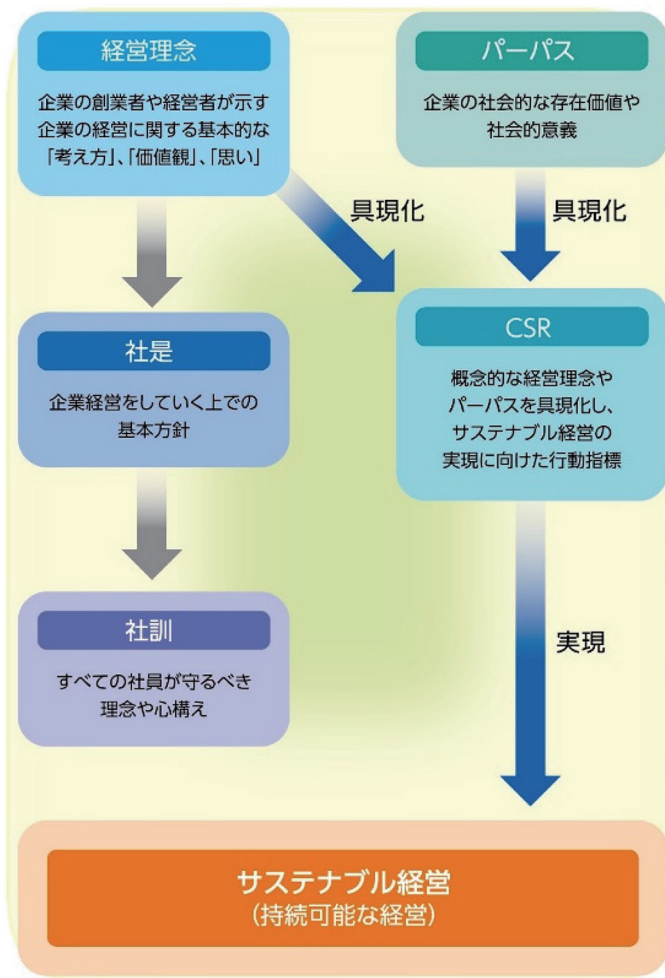


図1 CSR体系図

脚注1) サステナブル（サステナビリティ）経営：企業が環境保護、社会貢献、経済成長を同時に達成し、「企業の社会的責任」と「ビジネスの持続可能性」を両立させるための戦略的な経営手法のことです。

なお、図2におけるCSVとはCreating Shared Valueの略で日本語では「共通価値の創造」と呼ばれ、2011年にハーバードビジネススクールの教授であるマイケル・E・ポーター氏とマーク・R・クラマー研究員が発表した論文で提唱された自社の強みを用いて社会的課題の解決をめざす考え方のことです。

図2のように企業価値の維持・向上を図るには、企業価値を下げない・維持するための取り組みと企業価値を向上させるための取り組みの両方の側面からCSRを推進していく必要があります。前者が「自社の企業活動が社会（人や地球）に迷惑をかけないために行う取り組み」に対して後者は「自社の企業活動が社会とwin-winの関係を構築するために行う取り組み」となります。

## 5. 具体的な取り組み事例

では、弊社の取り組み事例をもとに説明させていただきますが、個社それぞれの特性は異なりますので、あくまでも参考として捉えていただくようお願いいたします。

CSRの取り組みを始めるには、CSRで自社が取り組む重要課題（これをマテリアリティと言います）の設定を行います。設定方法は社会の要求事項と自社の課題をマトリックス図で示して、ともに重要性の高い中から選定する方法などがありますが、弊社は次のようにして設定しました。

### 1) 守りのCSRへの取り組み

“企業はこうあるべき”と記載された文書は多くあります。例えば世界的なイニシアティブとして国連グローバル・コンパクトがあります。この国連グローバル・コンパクトは10の原則から構成され

ています。またこれを受けて日本では経団連による企業行動憲章が設定されています。さらにグローバル企業向けのOECD多国籍企業行動指針、CSRのガイダンスであるISO26000など、弊社はこれら自社の事業に関係するそれぞれの内容を確認して、取り組み内容を決定しました。

その一方で最近では、企業価値の評価は企業単体ではなく、自社の事業に関連する企業（これをサプライチェーンと言います）も含めた評価に移行しています。例えば、自社の購入先が強制労働や児童労働など人権を阻害する行為を行っている場合は、自社もまたこれらの行動に間接的に関与した企業とみなされ、社会から批判や制裁（例えば不買運動）を受けるケースが発生しています。このため、特に下流側（顧客）は上流側（供給先）に対しCSR調査を行う場合があります。業界により若干内容に差はありますが、RBA（Responsible Business Alliance）、JEITA（電子情報産業技術協会）、JAPIA（日本自動車部品工業会）、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの調査票などがその事例です。弊社は取り組み内容の設定に際し、これら調査票にも対応できるように考慮しました。

### 2) 攻めのCSRへの取り組み（CSRとSDGsの関係）

2項でCSVを取り上げましたが、CSV自体は概念的でありこれを具現化したものの一つがSDGsと言われています。SDGsはSustainable Development Goalsの略で日本語では「持続可能な開発目標」と言われ、世界の“困りごと”を17のゴールと169のターゲットで示し、2030年までに達成することをめざしています。169のターゲットのどれ一つを



図3 守りのCSR 7項目と攻めのCSR 3項目



とって世界を超巨大企業すら解決することのできない大きな課題であります。よって弊社のような規模の企業ではターゲットそのものではなくても、ターゲットに関連する課題を取り上げ自社なりに対応していく形が好ましいと考えました。

以上の結果から、弊社は図3に記載した守りのCSR 7項目（人権、労働安全衛生、環境保全、品質・安全性、コンプライアンス、情報セキュリティ、リスクマネジメント）と攻めのCSR 3項目（環境重視の商品創出、社会とのコミュニティによる価値創造、従業員のウェルビーイングの追求）を設定してCSRに取り組んでいます。

## 6. CSR と ESG の関係

皆様の中にはESGという言葉をよく耳にされる方も多くおられると思います。CSR、SDGsの他にESGにも取り組まなければならないのかと億劫に思われるかも知れませんが、実はこれらはすべてCSRに取り組むことでつながっております。

ESGはEnvironment（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）の頭文字を合わせた“投資家視点”の用語です。気候変動や人権などの世界的な社会問題が顕在化している中、これらの問題に対応できていない企業は、投資家などから企業価値毀損のリスクを抱えているとみなされます。

CSRはこれに絶対取り組まなければならないという決まりはありませんが、社会の要求を考慮したうえで取り組み内容を設定しますので、先ほど述べた気候変動対策や人権問題対応など社会が重要と考える内容は必然と含まれてくることになります。投資家としては投資先選定に向け企業活動を評価する必要がありますので、アナリストが企業の発信する情報を分析して点数付けやランキングを行っています。よって情報を発信する側（各企業）は自社で取り組んでいる内容をESGやSDGsのどれと関連しているかをCSR報告書などで明記している場合が多いです。

その一例として弊社はCSRの取り組みの一つに環境保全を取り上げています。弊社は塗料メーカーです

ので製造や化学物質を取り扱ううえで、特に環境保全は重要なCSRの取り組みです。環境保全の一つに気候変動対策としてのCO<sub>2</sub>排出量の削減があります。削減に向けてはまずは自社の企業活動によるCO<sub>2</sub>排出量を把握し、ターゲットを定めて削減対策を行っていく必要があります。弊社のこの取り組みに関しては第7項に記載の弊社CSR報告書（P36～38）に記載していますので、そちらも合わせてご覧いただければと思います。

## 7. CSR の浸透と外部への情報発信

CSRへの取り組みは特定の組織や個人だけが行うものではありません。経営層の強い意志と従業員全員で取り組む姿勢があつてこそ推進できると考えています。弊社のCSRへの取り組みは経営トップの意向から始まりましたので、あとはいかにして従業員の皆さんの意識にCSRを浸透させるかが大きな課題であります。

具体的な行動として、CSR方針を含め設定した10項目（守り7項目、攻め3項目）について弊社の取り組み姿勢や考え方を示した各方針を策定しました。その後、従業員に対しCSRや各項目に取り組むための詳細な内容を取りまとめた「Musashi Sustainability Guide」を発行（図4）し、日本拠点を皮切りに弊社海外拠点すべてで説明会を実施し、CSR導入時ににおける啓発活動を行いました。現在、この「Musashi Sustainability Guide」は日本語の他に英語、中国語、ベトナム語、ハンガリー語、韓国語（作業中）に翻訳され、グループ全従業員が携える形をめざしています。

また、CSR取り組みの目的である企業価値の向上については、弊社のCSR活動の外部への情報発信が必須となります。このため、弊社は2023年の1年間に取り組んだCSR活動をまとめた弊社としては第1回目となるCSR報告書を2024年6月に発行いたしました。現在は弊社HPにて日本語の他に英語、中国語でも閲覧できるようにしています。第1回目の報告書は弊社のCSR活動の紹介が主体となりましたが、2025年発行の第2回目では活動した結果などについても報告する予定です。



図4 Musashi Sustainability Guide 表紙、目次



(弊社 2024 年 CSR 報告書 URL と QR コード)



[https://musashipaint.com/assets/pdf/csr/MusashiPaintReport\\_2024\\_2p.pdf](https://musashipaint.com/assets/pdf/csr/MusashiPaintReport_2024_2p.pdf)

## 8. 最後に

塗料業界でもプライム市場企業やスタンダード市場企業の一部で CSR 報告書から統合報告書やサステナビリティ報告書にシフトしています。非財務情報が主

体の報告書から、これらの活動が財務にどのようにつながっているかを開示する流れです。弊社も 2026 年からはこの方向に変換していきたいと捉えています。ただし、弊社は株式を上場していませんので、一般的な報告書（右に倣え）に縛られることなく、自由度をもって“武蔵塗料らしさ”が表現できるツールでもありたいと考えています。

最後に CSR で取り組み内容は決して目新しいものではなく、“当たり前”のことを会社全体の視点からまとめていくものです。大切なポイントは今まで意識していなかった“当たり前”が、経営層を含む全従業員が意識しながら企業活動を行っていくことと思います。

以上、皆様が CSR を取り組まれるに際して一助になれば幸いです。

On demand powder coatings

# conall®

コナール

環境にやさしい、小ロット短納期、オンデマンドオーダー粉体塗料・コナール

- 1 ケース **5kg** からの指定色を製造※
- 鮮鋭性・平滑性にすぐれ、美しい仕上がり
- ご希望の色を忠実に再現
- 短納期

## 用途に応じた、豊富なラインナップ

標準タイプ	スーパーコナール	FL フッ素	屋外用最高級グレード。最高ランクの耐候性を有するフッ素樹脂粉体塗料です。
	ハイパーコナール	FH フッ素ポリエステル	屋外用高級グレード。フッ素樹脂を使いコストパフォーマンスに優れた中間グレード。
	コナール	PK 高耐候ポリエステル	1 ランク上の屋外用。耐候性と付着性のバランスが取れた使いやすい粉体塗料です。
		PU ポリエステル	一般屋外用。平滑性に優れ艶有から 3 分艶有まで調整可能です。
		PH ポリエステル	一般屋外用低温型、160℃×20 分での焼付が可能です。焼付時にヤニが出ません。
		HT エポキシポリエステル	一般屋内用。強靱で鮮鋭性に優れた塗膜です。
		HL エポキシポリエステル	一般屋内用低温型、150℃×20 分での焼付が可能です。
意匠性タイプ	コナール	ウェーブ	意匠性凹凸模様。溶剤系では表現できない立体的な模様で、重厚感と高級感を演出します。
		メタリック	ボンディングタイプ。溶剤系とは違うメタリックで重厚感と高級感を演出し、塗装も容易です。
		スリックスエード	新たな色彩表現となめらかな感触で商品に新しい可能性を開きます。
	コナールトーン	ハンマートーン	ハンマートーン模様。溶剤系でも長く親しまれてきたハンマートーンです。模様再現性は溶剤に比較して容易です。
		リンクルトーン	リンクル模様。縮み、チリメン、リンクルなど溶剤系でも様々な名称で親しまれてきました。粉体の模様は溶剤と比較して緻密で均一になります。
		スネークトーン	スネーク模様。リンクルトーンに似ていますが、まさに蛇革です。色を工夫することで斬新なイメージを与えることができます。
		アンティークトーン	アンティーク模様。粉体塗料独特の模様です。アンティーク、バンビー、フラッシュトーン、ハンマートンなど様々な呼称で呼ばれています。
		キャンディトーン	カラークリヤー。発色・塗装作業性だけでなく塗膜性能にもこだわり、今までのカラークリヤーを凌駕します。
		テラトーン	テラコッタ調模様。南欧素焼風の模様も粉体塗料であれば 1 コートで再現できます。
	チョコナ	各種	ペットボトル入粉体塗料。即日出荷の 100 色カラーバリエーション。粉体塗料をより多くの人に、より多くのものに。1 本 330gx2 本入りでオンラインショップにて販売中。

※ コナールトーンなど一部の塗料を除きます。詳しくはお問い合わせください。

● 樹脂により艶の調整範囲が異なります。詳しくはお問い合わせください。 ● 模様系塗料は、塗装設備・機器の種類、膜厚、焼付条件などで模様の状態が変化することがあります。 ● メタリックは、塗装機器の種類、膜厚等により輝度やメタリック感が変わる場合があります。 ● キャンディトーンは下地が透ける塗料ですので、下地の状態や膜厚により表情が変わります。



塗料・塗装資材の総合商社  
小ロット溶剤調色  
小ロット粉体製造  
塗装機器・設備のコーディネート

化学で人と自然の共生する明日へ



株式会社 三 王 粉体事業所  
埼玉県草加市弁天 4-17-18  
TEL: 048-931-2001  
FAX: 048-931-2141  
www.san-oh-web.co.jp  
info@san-oh-web.co.jp

快適と信頼が  
私たちの商品です。

表面処理の総合商社…



株式会社 **板通**

<http://www.itatsu.co.jp>

本社 〒326-0802 栃木県足利市旭町 553 TEL 0284(41)8181 FAX 0284(41)1250

本部 〒373-0015 群馬県太田市東新町 330 TEL 0276(25)8131 FAX 0276(25)8179

両毛支店/埼玉支店/高崎支店/小山支店/宇都宮支店/水戸支店/東北営業所  
フィリピン/タイ/インドネシア/中国

## 横浜化成株式会社

本 社 ☎108-8388 東京都港区高輪2丁目21番43号 ☎03(5421)8266(大代)  
大 阪 支 店 ☎530-0047 大阪市北区西天満5丁目1番9号 ☎06(6364)4981 (代)  
千 葉 支 店 ☎263-0001 千葉市稲毛区長沼原町804番地 ☎043(259)2311 (代)  
静 岡 営 業 所 ☎422-8067 静岡駿河区南町13番3号(TKビル) ☎054(282)5366 (代)

地球に優しい環境型塗装技術はこれからの優先課題です！！

地球環境に優しい次世代の塗装法 Powder Coating (粉体塗装)

「長さ 17.5m」「重量2.0t」最先端の生産環境におまかせください。

妥協を許さない信念で、高品質を保ち保ち続けます。

### 株式会社 明希

代表取締役会長 新井 かおる (薫) 代表取締役社長 新井 裕喜

〒675-1202 兵庫県加古川市八幡町野村字蟹草 616-44

TEL 079-438-2737 (代) FAX 079-438-2771 (代)

HP:<http://www.e-orca.net/~meiki/> Email:meiki\_qa@e-orca.net



樹脂からマグネシウムまでをラインシステム化した多量生産方式を採用

## 新素材をコーティングする

粉体塗装

電着塗装

溶剤塗装

本 社 〒142-0063 東京都品川区荏原 6-17-16 ☎03(3787)0711(代)  
上里工場 〒369-0315 埼玉県児玉郡上里町大字大御堂字長久保1450の37 ☎0495(34)0801(代)  
児玉工場 〒367-0206 埼玉県本庄市児玉町共栄 800-9 ☎0495(72)6191(代)

ISO 9001・14001 登録企業

アックでは、塗料・塗装方法・設備・機器  
の提供はもちろん、塗料専門商社と  
しての経験と知識を活かして、皆様が  
抱える問題に対し、環境時代に最適な  
「アイデア」を提案します。

環境時代が求める  
エコロジカル・  
ペインティングへ



お客様に「信頼と満足」を

株式会社アック

[www.a-c-c.co.jp](http://www.a-c-c.co.jp)

本社／名古屋市港区十一屋2-12 〒455-0831 TEL(052)381-5599  
名古屋・小牧・三河・豊川・弥富・浜松・いわき・山口・東京



塗装会社が、  
風土改革コンサル  
はじめましたw！

自主的**考動**を育む製造業による働きがい改革

『T-CX』

ツツイ式 企業風土  
トランスフォーメーション

自主的に考動できない…

連携できない…

やらされ感…、他人事…

離職が多い…、採用できない…



SDGs、DX、働き方改革をスムーズに運用する為には…

【自主的考動を育むアプローチ】が有効です。

聴く

問う

伝える

待つ

【お客様の声】

- ・社員だけに変化を強いていたことに気づいた。
- ・コーチがいることで実践できるようになった。
- ・ストレス無く、充実した経営ができるようになりました。
- ・家族との関係性も劇的に改善出来ました。

詳しくはT-CXチラシへ！



働きがい改革とわくわくSDGsと粉体塗装のバイオニア

筒井工業株式会社

## 素材の付加価値を向上する

地球にやさしい粉体塗料

V-PET  
Series

高意匠性シリーズ 特殊模様粉体塗料

エポキシ/ポリエステル系

V-PET 特殊模様 **サテン**

落ち着いた高級感あるサテン調仕上げ

エポキシ/ポリエステル系

V-PET 特殊模様 **リンクル**

立体的な3分つやからグロスの凸凹模様仕上げ

パウダーフロンシリーズ ふっ素粉体塗料

ふっ素樹脂系

パウダーフロン**CW**

3分つや〜フルグロスまで光沢調整が可能

ふっ素樹脂系

パウダーフロン**SELA**

ふっ素樹脂とポリエステル樹脂の二層分離形

…彩りに優しさをそえて…  
未来へつなぐ

大日本塗料株式会社

**DNT**  
DAI NIPPON TORYO

お問い合わせは—  
●大阪 ☎06-6266-3134 ●東京 ☎03-5710-4505  
●小牧 ☎0568-76-5578 <https://www.dnt.co.jp/>  
塗料相談室フリーダイヤル 0120-98-1716

# 粉体塗装のパイオニア。



独自のパルス制御で美しい仕上がりへ

**新製品**

## Pulse Power 9000 シリーズ



Pulse Power9000S  
塗料タンクモデル



Pulse Power9000TS  
2丁取塗料タンクモデル



Pulse Power9000B  
塗料箱モデル



Pulse Power9000TB  
2丁取塗料箱モデル

東京営業 : 03-3278-4800  
北関東営業所 : 028-662-7641

名古屋営業所 : 052-823-1751  
大阪営業所 : 06-6386-6132

北陸出張所 : 0766-26-5131  
九州営業所 : 093-631-7464





今年も 2024 年 10 月 29 日（火）から 31 日（木）の 3 日間で高機能素材 Week 2024 が幕張メッセの 1 ホールから 8 ホールを使用し開催されました。

昨年の来場者は 43,663 人でしたが、本年は 46,813 人と約 7% の増となりました。

開催は、6 件の展示会の同時開催となっており、塗料関連は「塗料・塗装設備展（コーティングジャパン）」が開催されました。本展示会の共催団体である（一社）日本塗料工業会（JPMA）の他、日本塗装機械工業会（CEMA）、コーティングコンソーシアム（CoCo）の出展もあった。JPMA の小間は、昨年より小間数を拡大し、また参加企業も関西ペイント、日本特殊塗料、水谷ペイント、久保孝ペイント、中国塗料、斎藤塗料、ユニオングループ、東洋アルミ、シグナル（ショーアップディビジョン）の 9 社に増えてのパネル等展示で集客のアップを図っていました。



JPMA ブース



JPMA ブース

また、CEMA、CoCo、塗料報知のブースも JPMA のブースとブース内で行き来できる一体感のある展示となっていることもあり、多くの来客対応にスタッフ側も忙しく対応されていました。



CEMA、CoCo、塗料報知ブース



CEMA、CoCo、塗料報知ブース

塗料メーカーとしては、単独出展でイサム塗料、藤倉化成が出展しており、新規参入の塗料メーカーとしては、大阪ガスリキッドが粉体塗料を紹介していました。既存の粉体塗料メーカー以外での粉体塗料の出展・展示は、粉体塗料の今後の市場の拡大に大きな期待を持っていると考えられます。

当組合賛助会員のパーカーエンジニアリングも出展されていました。





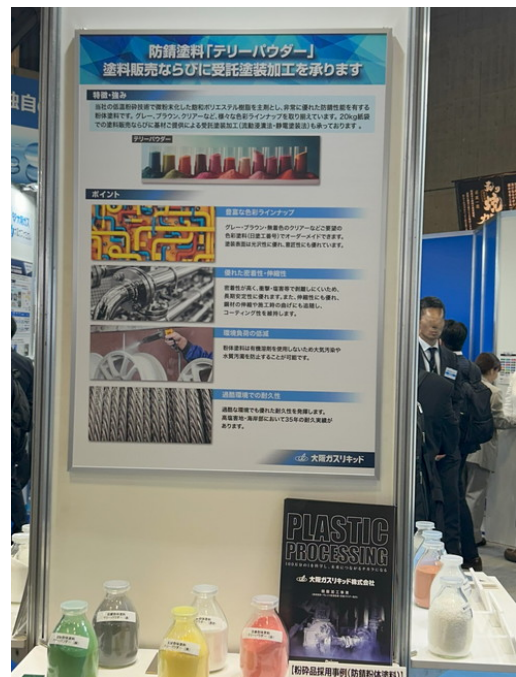
イサム塗料ブース



藤倉化成ブース



大阪ガスリキッド展示1

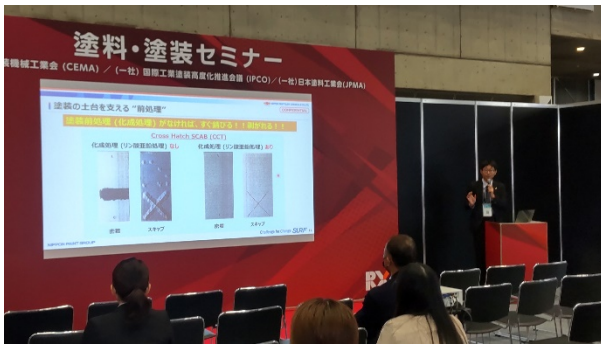


大阪ガスリキッド展示2

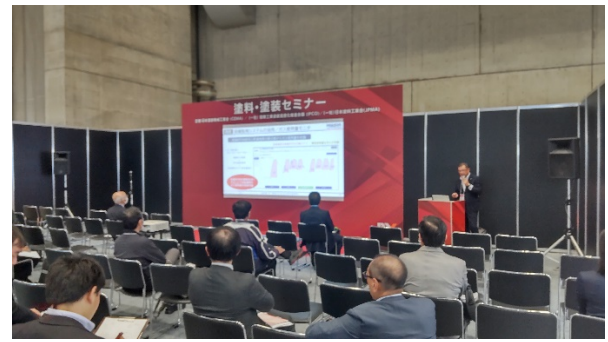
本年もコーティングコンソーシアム (CoCo) の3団体が、各団体1日ずつ担当しセミナーを開催しました。当協同組合が参画するIPC0の担当は第1日目で、第2日目は(一社)日本塗料工業会、第3日目は日本塗装機械工業会がそれぞれ担当しました。残念ながら私はスケジュールが合わず参加することができませんでしたが、参加された方より情報を頂戴し以下に内容を記させていただきました。

IPC0 担当の初日のセミナー内容は、第一講演は日本ペイント・サーフケミカルズ株式会社 商品開発部 基盤技術ユニット マネージャーの三浦裕佑氏による「環境配慮型塗装前処理のご紹介 ー水性塗布型 1 コート技術ー」で第2講演は株式会社ヒバラコーポレーション 代表取締役社長 小田倉久視氏による「塗装工場のための DX/AI 技術活用による省人化手法と実践」、第3講演は株式会社ヒートエナジーテック 尾崎崇志氏による「カーボンニュートラル実現に向けた水素燃焼バーナー商品化と塗装設備への導入検討」、第4講演は戸崎産業株式会社 代表取締役 戸崎 寿人氏による「工業塗装で取り組む環境対応」、第5講演はユカエンジニアリング 代表取締役社長 堀田氏による「ユニット型装置による、短納期化・導入コスト合理化・省スペース化 ー溶剤回収および排水処理からの提案ー」以上の5公演が行われ、各講演とも環境負荷低減や省人化などのテーマでタイムリー内容であることもあり、以下の写真の通りで講演内容についても好評だったと聞いております。

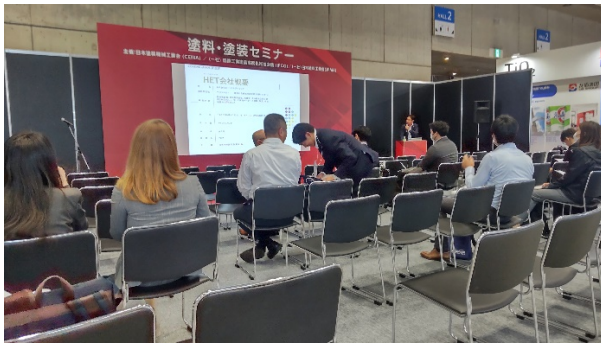




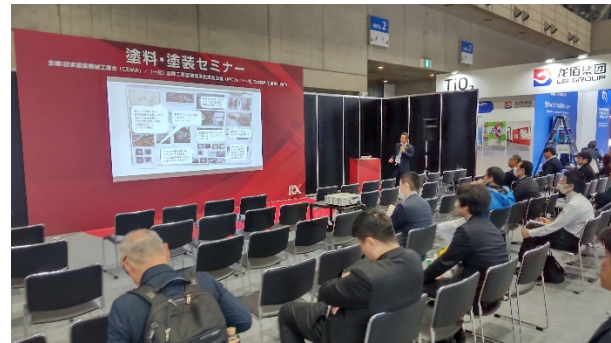
日本ペイント・サーフケミカルズ三浦氏講演



ヒバラコーポレーション小田倉社長講演



ヒートエナジーテック尾崎氏講演



戸崎産業 戸崎社長



ユカエンジニアリング 堀田社長講演



セミナー会場の様子

第2日目の日本塗料工業会、第3日目の日本塗装機械工業会のセミナー内容は以下の通りとなっています。

また、今回目についたのは、加飾フィルムに関する展示が設備会社の大気社他で行われていて、関連展示が散見されました。特に自動車メーカーのカーボンニュートラルへの対応のひとつとして検討が進んでいる感じが、自動車メーカー以外でも研究開始か否かの検討を行っている企業もあるようです。

塗装に関するカーボンニュートラルへの対応は、自動車メーカーが先導する形で進んでゆきそうですが、当組合としても環境負荷低減に関する情報の感度を上げ、皆様に情報発信するよう努力する所存です。

コーティングジャパン塗料・塗装セミナー

		第1公演	第2講演	第3講演	第4講演	第5公演
第1日 IPCO	講演者	日本ペイント・サーフケミカルズ（株） 技術本部商品開発部 基盤技術ユニットマネージャー 三浦 裕祐 氏	（株）ヒバラコーポレーション 代表取締役社長 小田倉 久視 氏	（株）ヒートエナジーテック 東日本営業課 課長 尾崎 崇志 氏	戸崎産業（株） 代表取締役 戸崎 寿人 氏	ユカエンジニアリング（株） 代表取締役社長 堀田 哲平 氏
	講演タイトル	環境配慮型塗装前処理のご紹介 ー水性塗布型1コート技術ー	塗装工場のためのDX・AI技術活用による省人化手法と実践	カーボンニュートラル実現に向けた水素燃焼バーナ商品化と塗装設備への導入検討	工業塗装で取り組む環境対応	ユニット型装置による、短納期化・導入コスト合理化・省スペース化 ー溶剤回収および排水処理からの提案ー
第2日 JPMA	講演者	久保孝ペイント株式会社 永田翔悟 氏・後藤祥司 氏	SHOWupシグナル/MAZIORA 桑木 真之介 氏・清水 慶司 氏	（一社）日本塗料工業会 普及広報部 清水 慶司 氏	水谷ペイント株式会社 水谷 勉 氏	（一社）日本塗料工業会 常務理事 田桐 澤根 氏
	講演タイトル	サステナビリティへの貢献 持続可能な製品のご紹介	カスタムペイントの無限の可能性を探る	魅力ある塗料産業 ～日本の塗料工業2024～	①新技術：光触媒酸化チタン水性メタルコーティング ②新規な水性二液型樹脂システム	塗料・塗装業界のサステナビリティ対応
第2日 GEMA	講演者	旭サナック株式会社 塗装機械事業部 塗装技術部 システム開発課 本山 祐 氏	ファナック株式会社 ロボットアプリケーション技術本部 塗装・シーリング技術部	タクボエンジニアリング株式会社 営業技術部 寺内 謙介 氏	GFTランズバーグ株式会社 営業本部 Finishing営業 中部 セクションリーダー 二村 幸和 氏	
	講演タイトル	脱炭素社会に貢献する 静電自動ガンについて	協働ロボットによる 塗装工程の自動化	「インジウム・ミラー 塗装システム」のご紹介 塗装による鏡面塗膜の実現	塗装工程の稼働効率向上に 貢献するロボット用塗装機の 紹介	

IPCO （一社）国際工業塗装高度化推進会議

JPMA （一社）日本塗料工業会

GEMA 日本塗装機械工業会



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、当組合の活動にご理解を賜り、ご支援有難うございました。

本年も変わらずよろしくお願いいたします。

さて、新年を迎え関係団体様の新年賀詞交歓会、新年互礼会、新年会等新年の行事が開催され、当組合としてもいくつかの会に参加させていただきましたので、一部をここに紹介いたします。

まず最初に当組合の新年賀詞交歓会をご紹介します、続いて関係各団体の新年行事をご紹介します。

#### 1. 日本パウダーコーティング協同組合(JAPCA) 新年賀詞交歓会

開催日時:2025年1月24日(金) 16:00~18:00 @第一ホテル東京「ルミエール」の間

- ・ 副理事長 板橋一博の開会の挨拶が行われた。新年にトランプ大統領が就任したことは不安でいっぱいである。本年の大きなやらないといけない事は賃上げであるが、原料高による価格転嫁は一定レベルまで達成しているものの、賃上げとのバランスの取れた粗利となっているか、などまだまだ検討の余地がある。その中で当組合は製造・販売・塗装機器・塗装業の会社が集まる稀な団体であり、粉体塗装市場を成長させるには相互の情報交換が重要で当組合を活用していただきたいと挨拶がありました。
- ・ 引き続き来賓を代表して、経済産業省 製造産業局 素材産業課 課長補佐 蝶野雅敏 様より新年の祝辞を頂戴しました。当組合は化学産業業界に属するが製造業全体の2割の付加価値を生み出していて、今後も皆様が活躍頂きたい。最後に大阪・関西万博に関する協力のお願いとパンフレットの提供がありました。本記事の最後にパンフレットを添付しておきます。
- ・ 本年の参加者数は、70名で昨年の50名より20名多くの方々にご参加いただきました。
- ・ 乾杯の音頭は、当組合の副理事長である前島靖浩が行いました。粉体塗装はカーボンニュートラルに貢献できる塗装方法であり今後普及拡大することも踏まえ乾杯に入りました。
- ・ 歓談の時間もたれたのち、ご来賓の紹介、新たな参加者の紹介等が行われました。
- ・ 中締めは、当組合の理事で大阪支部事務局の片山智彦が行いました。粉体塗装の黎明期よりかかわっているが、当時の組合のメンバーにはお世話になった記憶があり、4つの業界団体との情報交換の重要性について力説され、中締めとして一本締めが行われました。以上をもって会は、滞りなく終了致しました。

(以下開催順に掲載いたします)



板橋副理事長挨拶



METI 蝶野課長補佐様祝辞



前島副理事長乾杯



片山理事中締め

## 2. 中部塗料塗装賀詞交歓会

開催日時:2025年1月7日(火) @ANAクラウンプラザグランコートホテル名古屋

- ・JAPCAとしては参加していませんが、コーティングメディア社記者の櫻井氏がレポートしてくれています。
  - ・第41回中部塗料塗装賀詞交歓会が1月7日(火)、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋で開催された。愛知、三重、岐阜の塗料・塗装の関係者 210 名が参集した。
- 最初に実行委員会の橋本淳会長があいさつし、続いて来賓として日本塗料工業会の児島興志夫専務理事などが祝辞を述べた。来賓紹介の後に、日本塗料商業組合の中山保幸理事長の乾杯の発声で祝宴に移った。



橋本会長 開会挨拶



日塗工 児島専務理事 祝辞

## 3. 一般社団法人 日本塗料工業会(日塗工)新年賀詞交歓会

開催日時:2025年1月8日(水) 12:00~13:30 @ホテルニューオータニ「鳳凰」の間

- ・会長 若月一郎氏の開会の挨拶が行われ、新年の挨拶の後世界の情勢や懸念事項などのお話と日塗工のこれからの取組みとして、ISO TC35 の国際会議の開催や安全教育のVR作成について等のご紹介がありました。
- ・引き続き経済産業省 製造産業局 大臣官房審議官 浦田秀行様の来賓祝辞がありました。
- ・乾杯は同工業会の副会長 遠田比呂志氏が取られました。
- ・中締めは同じく副会長の春田隆氏のご発声により一本締めで終了致しました。
- ・参加者数は、昨年よりも多いと感じましたが、480 名と聞いております。
- ・本年より、旧日本塗料協会会員を中心に行われていた新年賀詞交歓会の開催を見送られたことは残念です。



若月会長挨拶



浦田大臣官房審議官様祝辞



#### 4. 日本パウダーコーティング協同組合大阪支部 & パウダークラブ

開催日時:2025年1月17日(金) 17:50~20:00 @アークホテル大阪心斎橋「孔雀」の間

- ・大阪支部長の新井裕喜理事の開会の挨拶では、大阪支部で大阪・開催万博の経済効果のご紹介がありこの機会に皆さんもしっかり儲けましょうとの力強い言葉で始まり同氏による乾杯のご発声で会が始まりました。
  - ・司会進行の片山智彦理事のいつもながらの振りがさく裂し、私も組合の事務局として一言挨拶を振られました。ダイテック(株)専務取締役 長谷川 正様、三洋塗装工業(株)専務取締役 片山達彦様、戸崎産業(株)専務取締役 戸崎勇人様の3名が若手経営者として紹介があり、挨拶を振られていました。その他にも初参加の2名の方が壇上に挙げられていました。業界の若返りより粉体塗装市場が増々活性化することを望みます。
- ※残念ながら写真撮影するのを失念しておりました。

#### 5. 日本塗装機械工業会(CEMA)新年互礼会

開催日時:2025年1月20日(月) 15:00~17:00 @新横浜グレイスホテル「リディア」の間

- ・工業会専務理事 樋川浩一様の宣言で開会されました。
- ・最初に昨年ご逝去された元専務理事 平野克巳氏及び元会長 木下真生氏に対し感謝をもって1分間の黙祷を行いました。
- ・その後、同工業会会長である佐伯直泰氏の日本はものづくり立国であり、そうあり続ける必要があり、製造業としての喫緊の課題である、カーボンニュートラルやSDGsの問題があるがこの様な問題に対し積極的に取り組まれるとのお話がありました。
- ・ひとり目の来賓の挨拶として、日本工業塗装協同組合連合会(工塗連)会長の高橋 正氏より、ドジャーズ大谷選手の将来像のしっかりとしたイメージを持ち達成のために計画的に実績を上げていく姿を挙げて、企業も将来像を設定し計画的に事業を進める必要があり、本年は巳年でもあることより脱皮をくり返し成長することが重要と挨拶されました。
- ・ふたり目の来賓の挨拶として、一般社団法人日本塗料工業会(日塗工)専務理事の田桐澤根氏は、昨年より続く、ロスの山火事に係る温暖化問題や地政学的問題のウクライナ・ロシアやイスラエル・ハマスの戦争など暗いニュースと共に、スポーツ界の日本の成果にも勇気づけられた一年でしたが、地政学的問題、特に戦争は経済に大きな影響を与え不安定感を継続させている。この不安定な状況において、日塗工として環境負荷低減のテーマに力を入れて年間の事業計画をしている。また、労働安全衛生についてもVRの導入など力を入れるとのお話でした。
- ・来賓の祝辞の後、CEMA 副会長の里見康夫氏の音頭で乾杯が行われ、歓談の時間に入った。
- ・中締めは、同じく CEMA 副会長の服部修一氏が行い、来年の CEMA の 50 周年について、できたことは、会員、関係団体等の皆様のお力添えがあったからと謝辞を述べられ、今後も業界の連携が重要であることを力説され、1本締めで中締め行われた。



CEMA 佐伯会長 挨拶



工塗連 高橋会長 祝辞



日塗工 田桐常務理事 祝辞



CEMA 里見副会長 乾杯





CEMA 服部副会長 中締め

6. 今後予定されている新年賀詞交歓会

東京工業塗装協同組合

開催日時:2025 年 2 月 1 日(土) 18:00~20:00 @浅草ビューホテル「祥雲I」の間

7. 最後に

当組合の他関係団体の賀詞交歓会に出席させていただきましたが、人手不足の問題や環境負荷低減のための温暖化ガス抑制対策などなど、いずれに致しましても業界の連携が重要になります。関係団体の連携を取り一丸となって色々な問題に対応することで、大きな力になると思います。関係を強化し諸問題に対応してゆきましょう。

以上

ぜんぶのいのちと、ワクワクする未来へ。

# 2025 大阪・関西万博

開催期間 2025年4月13日(日)~10月13日(日) 開場時間 午前8時~午後10時 会場 大阪・関西





## 2025年日本国際博覧会

テーマ：いのちも輝く未来社会のデザイン

2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）は、「いのち」をテーマに掲げる万博として、世界約170の国に集う機会となります。本万博を機軸として世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや創造を促進し、世界的な価値をやり継ぎ、一人一人のいのちを守り、いのちの豊かさを、生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示す万博となることを目指します。









大阪・関西万博公式主催イベント

## One World. One Planet.

世界の願いをつないで、ひとつに。

世界中・世界中の人の心、愛・希望・情熱を伝え、  
ひとつづつつながる「地球村の未来をこころ」。

会場中の国・地域、各毎日展示予定

## Physical Twin Symphony

調和する人とテクノロジーの未来

世界中の文化が交わり、  
すべてが心で響きあう未来のエンターテインメント

EXPOホールにて、韓国および日本国展示予定



世界を未来の空と海の間に、デジタル・フィクション・リアリティとつながる  
世界を未来の空と海の間に、デジタル・フィクション・リアリティとつながる



大阪・関西万博の未来をテーマにしたエンターテインメント、人とテクノロジーが  
調和する未来のエンターテインメント。

## 「水」と「空気」のスペクタクルショー「アオと夜の虹のバレード」

ウォーターガーデンにて、会場中の国・地域、各毎日展示予定

大層輝くシンデレラ、空の舞の水面「ウォーターガイズ」が行われる。水、空、光、風、音楽、そして音楽が響くような  
水・シンデレラ、水・空、約200メートル、最大高さ10メートル、シンデレラ音楽隊約3,000人の巨大大舞台が設置。



「バレード」



「バレード」



「バレード」

4月・5月・10月： ① 19:30～(18:40開演) ② 20:30～(20:40開演)  
7月～9月： ① 19:30～(19:40開演) ② 20:30～(20:40開演)

本会場内には会場案内所が設置されます。

イベント情報サイト・アプリ

大阪・関西万博では、ドメイン「wakupark」を最も多く、ぜひ、見ごきせに必要多数のイベントが行われます。  
各イベントの開催は公式ホームページの公式「大阪・関西万博2025 Visitors」をご覧ください。

ナショナルデー（ND）、スペシャルデー（SD）とは？



万博会場内、万博に比較に参加する「地域・国・地域」の国・地域「公式会場」が1日  
ナショナルデー（ND）（地域）またはスペシャルデー（SD）（国・地域）を開催します。  
ナショナルデー、スペシャルデーは、それぞれ公式会場の国・地域を  
紹介する、公式会場の国・地域に関する展示、国・地域の文化や歴史に関する  
展示が行われます。当日は、公式会場の国・地域の国・地域、国・地域の国・地域  
を通じて行われる文化・芸術が行われる、多様な文化・芸術に魅了され、楽しむ  
ことができます。

2025年日本国政府主催  
イベント情報ウェブサイト



2025 万博公式情報







## 表紙解説

表紙絵画：小島輝夫

表紙写真

「雪晴れの農業地」

雪晴れとなった日の景色を撮影しようと自宅付近を歩いた。海軍道路に来ると、農業地は 30 センチあるのではないかと思える積雪量だ。ほとんど土が現れていない。快晴で気温が上がったのか、雪面は穴模様と縞模様ができていた。遠方には冠雪した丹沢山塊が横たわり、絵になる景色だった。

パウダーコーティング

ISSN 1346-6739

2025 年 1 月 31 日 Vol.25 No.1

発行所：日本パウダーコーティング協同組合(JAPCA)

東京都港区芝 5-31-16 YCC ビル 9F

TEL: 03-3451-8555 FAX: 03-3451-9155

URL: <http://www.powder-coating.or.jp>

制 作：パウダーコーティング誌 制作部

©2025 日本パウダーコーティング協同組合

本誌に記載されたすべての記事内容について、日本パウダーコーティング協同組合の許可なく転載・複写することを禁じる。

パウダーコーティング ISSN 1346-6739  
二〇二五年一月三十一日 Vol.25 No.1  
定価 二〇〇〇円

発行：日本パウダーコーティング協同組合 (JAPCA)  
東京都港区芝五・三・一六 YCCビル  
制作：パウダーコーティング誌制作部